

平成20年度開通箇所の概要

1 晴海線（豊洲～有明間）

晴海線は、現在、都心環状線に集中している築地・月島地区等の交通及び今後、晴海・豊洲地区の開発事業により発生する交通需要を高速湾岸線に誘導し、交通の分散を図る路線で、豊洲～有明間の1.5 kmが、平成20年度に開通する予定です。

晴海線の開通により、湾岸線と接続する11号台場線及び9号深川線のバイパス効果が発揮され、経路選択の幅が広がるとともに、東京湾岸部全体の連携、臨海副都心の開発及び湾岸地区の高速道路ネットワークの強化が図られます。

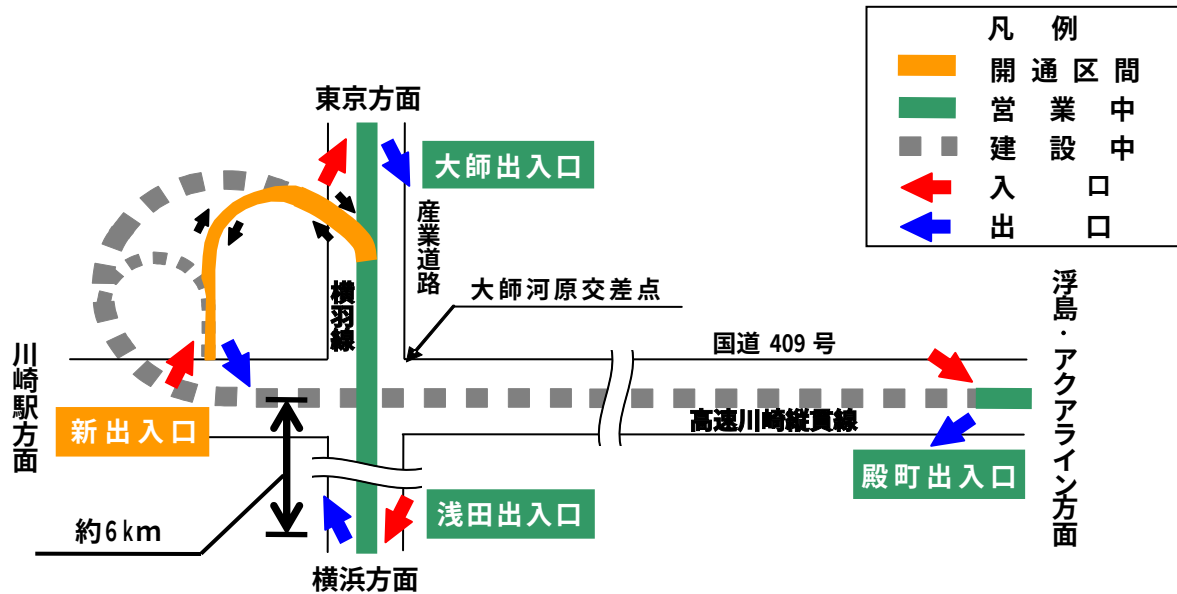
また、平成19年度完成予定の有明辰巳ジャンクション間改良事業の渋滞緩和効果により、開発著しい豊洲地区に直接アクセスが可能となる晴海線の利便性が更に向上します。



2 川崎線（横浜方向出入口）

川崎線大師ジャンクションに整備する横浜方向出入口については、平成20年度に開通する予定です。

なお、殿町～大師ジャンクション間（2.0 km）については平成22年度開通予定です。



○利便性の向上

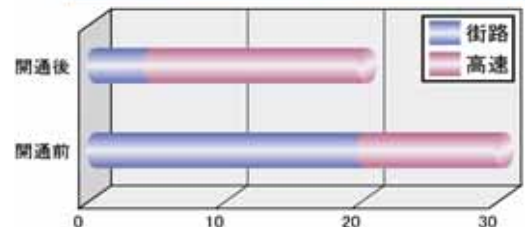
川崎市臨海部と横浜市中心部とのアクセスにおいて、大師ジャンクション横浜方向出入口を利用することにより、街路を走行する距離が約6 km減少するため、京浜急行大師線川崎大師駅～みなとみらい間の所要時間が30分から20分へ10分短縮します。

これにより、川崎市臨港部と横浜市中心部とのアクセス機能が強化され、利便性が向上します。

川崎大師駅～みなとみらい間のアクセスが向上

開通後は30分から20分に短縮できます。

川崎大師駅～みなとみらい間の所要時間の変化



○渋滞緩和

横浜方向出入口では、平日1日あたり約5,000台程度のご利用が見込まれ、これにより、現在、横羽線浅田出口をご利用いただいている平日1日あたり約22,000台の自動車交通が、横浜方向出入口の整備により分散し、約4,000台（約2割）の減少が見込まれます。

特に、浅田出口では、分散により産業道路の浅田交差点を先頭に横羽線本線まで影響することがある渋滞が大幅に緩和します。

また、それに伴い周辺の一般道路でも交通量が減少し、流れがスムーズになることが期待できます。

横羽線浅田出口の渋滞が緩和

浅田出口に集中する交通が分散されます。

